ポスト京で迫る 重力崩壊型超新星の長時間進化

<u>中村 航(早稲田大学)</u>

滝脇 知也(国立天文台),黒田 仰生(バーゼル大学),固武 慶(福岡大)

素粒子・原子核・宇宙「京からポスト京に向けて」シンポジウム Mar. 30-31, 2016

ポスト「京」重点課題(9) 「宇宙の基本法則と進化の解明」



拠点長:青木愼也(筑波大)

筑波大学計算科学研究センター(代表機関) 高エネルギー加速器研究機構 自然科学研究機構国立天文台 京都大学基礎物理学研究所

理化学研究所仁科加速器研究センター 東京大学原子核科学研究センター 大阪大学核物理研究センター 千葉大学八ドロン宇宙国際研究センター

事務局(マネジメント・広報など)

研究連絡会

運営委員会

研究担当責任者(副拠点長)



ポスト「京」重点課題(9) - サブ課題B 「物質創成史の解明と物質変換」















超新星の親星構造依存性





超新星を特徴付ける量: <u>ニュートリノ光度、爆発エネルギー、</u> <u>ニッケル生成量、PNS/BH質量、</u>etc.

これらは初期条件(親星の構造)とどのよう な関係にあるか?

方針:元素合成・銀河化学進化を見据えた 超新星の系統的研究

Step 1: 時間・空間を限定して超新星の系統的性質を解明 KN+'15 PASJ, 67 (6) 107

R<5,000km, t<1.5s

まずは計算領域を中心の鉄コア周辺に限定.
 幅広い質量域(M = 10.8-75 Mo)、金属量(Z = 0-1 Zo)の親星を使用.
 → 計 378モデル
 空間2次元 → 対流, SASIが発生.
 ニュートリノ輸送を解く → パラメータなしの self-consistent 計算.
 核反応も同時に解く → Ni合成量の見積もり.

▶ Step 2: "代表的な"モデルを選んで長時間計算

KN+, in prep.

R<100,000km, t<10s

同じセットアップ(EoSは拡張)で広範囲・長時間計算.

→ 最終的な爆発エネルギーは? ニッケル合成量は?

→ ポストプロセスで大規模核反応ネットワーク計算.

Systematic features of CCSNe KN et al., PASJ (2015)

- ・ 数値計算コード
 - 詳細は KN+'15 PASJ, 67 (6) 107 参照
 - $2D, n(r)*n(\theta) = 384*128$

r = 0-5000 km, θ = 0- π

- ニュートリノ輸送スキーム
 - *v*e,*v*e:IDSA spectral transport (Liebendoerfer+09) *v*x:leakage scheme

with 20 energy bins (< 300 MeV)

- 状態方程式
 - LS220 (Lattimer & Swesty '91)
- 核反応
 - 13α (He-Ni) ネットワーク
- ・ 親星モデル
 - M = 10.8-75 Mo, Z = 0-1 Zo, 回転・磁場なし

計 378 モデル (Woosley, Heger, & Weaver '02)

計算には国立天文台の共同利用計算機
 Cray XC30を使用(96 cores × 2.5 days / model)





ニュートリノ光度の時間発展

✓ 378モデルのうち太陽金属量を持つ101モデルに注目(以下同様). 他の金属量のモデルも(示していないが)傾向は同じ.

✓ モデルによってニュートリノ光度に2倍以上の大きな差.
 2-6 ×10⁵² erg/s @ t = 200 ms.

✓ コンパクトネスで色分けすると単調な傾向.





ニュートリノ光度の時間発展

✓ 378モデルのうち太陽金属量を持つ101モデルに注目(以下同様). 他の金属量のモデルも(示していないが)傾向は同じ.

✓ モデルによってニュートリノ光度に2倍以上の大きな差.
 2-6 ×10⁵² erg/s @ t = 200 ms.

✓ コンパクトネスで色分けすると単調な傾向.





"ある時刻"における物理量比較

✓ 全378モデルを定量的に比較するため、時刻を固定.
 ✓ 初期質量(ZAMS mass)はよい指標ではない.
 ✓ コンパクトネスパラメータに対して単調な傾向.
 ✓ その傾向は金属量に依らない.





"ある時刻"における物理量比較

 M/M_{\odot}

 $R(M)/1000 \mathrm{km}$

コンパクトネスパラメータ ✓ 全378モデルを定量的に比較するため、時刻を固定. (*O'Connor & Ott 2011*) ✓ 初期質量(ZAMS mass)はよい指標ではない。 ✓ コンパクトネスパラメータに対して単調な傾向. $\xi_M \equiv$ ✓ その傾向は金属量に依らない.



超新星物理量とコンパクトネスの関係

What determines the CCSN properties is ... mass accretion onto the central PNS!

(*Not too much) Mass accretion /

→PNS mass /

- $\rightarrow v$ luminosity /
- \rightarrow Explosion energy

→⁵⁶Ni mass /

*Too much accretion leads to BH formation and/or failed explosion.





超新星物理量とコンパクトネスの関係

What determines the CCSN properties is ... mass accretion onto the central PNS!

(*Not too much) Mass accretion / →PNS mass / →v luminosity / →Explosion energy / →⁵⁶Ni mass /

コンパクトネスパラメータ (*O'Connor & Ott 2011*) $\xi_M \equiv \frac{M/M_{\odot}}{R(M)/1000 \mathrm{km}}$ 各親星の構造に対応.



方針:元素合成・銀河化学進化を見据えた 超新星の系統的研究

Step 1: 時間・空間を限定して超新星の系統的性質を解明 KN+'15 PASJ, 67 (6) 107

R<5,000km, t<1.5s

爆発の特徴的な量(ニュートリノ光度、PNS質量等) はコンパクトネス **ξの関数**として表すことが可能.

- →しかし爆発エネルギーや元素合成反応は まだ収束していない.
- ➢ <u>B. Mueller '15</u>

R < 100,000 km, t < 6−11 s

COCONUT (GR hydro.) - FMT (v) $\neg -F$ M = 11.0 - 11.6 Mo 2D, n(r)*n(θ) = 550*128



方針:元素合成・銀河化学進化を見据えた 超新星の系統的研究

Step 1: 時間・空間を限定して超新星の系統的性質を解明 KN+'15 PASJ, 67 (6) 107

R<5,000km, t<1.5s

爆発の特徴的な量(ニュートリノ光度、PNS質量等) はコンパクトネス ξの関数として表すことが可能.

→しかし爆発エネルギーや元素合成反応は まだ収束していない.



▶ Step 2: "代表的な"モデルを選んで長時間計算

KN+, in prep.

R<100,000km, t<10s

Step 1で爆発に転じたモデルの中から小/中/大 ξ モデルを選択 → M = 11.2, 17.0, 27.0 Mo の太陽金属量モデル.

同じセットアップ(EoSは拡張)で広範囲・長時間計算. → 最終的な爆発エネルギーは? ニッケル合成量は? → ポストプロセスで大規模核反応ネットワーク計算.

Long-term CCSN simulation (KN et al., in prep.)

- 数値計算コード
 - 基本的に378モデル計算と同じ
 - $2D, n(r)*n(\theta) = 1008*128$
 - *r*=0-**100,000 km**, *θ*=0-π
 - ニュートリノ輸送スキーム
 - *v*e,*v*e: IDSA spectral transport (Liebendoerfer+09) *v*x: leakage scheme
 - with 20 energy bins (< 300 MeV)
- 状態方程式
 - LS220 (Lattimer & Swesty '91) + Si gas
- 核反応
 - 13α (He-Ni) ネットワーク
- 親星モデル
 - 11.2, 17, 27 Mo, 太陽金属量, 回転・磁場なし
 (Woosley, Heger, & Weaver '02)
- 計算には国立天文台の共同利用計算機
 Cray XC30を使用(576 cores × 20 days / model)



Long-term CCSN simulati (KN et al., in prep.)

- ✓ 全てのモデルが爆発に転じた.
 t = 7-8 秒で衝撃波が外境界@10万kmに.
 (He層の底に対応)
- ✓ <u>s11.2モデル</u> 爆発エネルギー、PNS質量ほぼ収束 Eexp = 0.19 foe, Mpns = 1.36 Mo
- ✓ <u>s17.0モデル</u>
 ~7秒後でまだEexp, Mpns成長.
 Eexp = 1.23 foe, Mpns = 1.85 Mo

✓ <u>s27.0モデル</u>

s17.0モデルと同様に成長.
5.29秒後に1D GR計算で予言される限界 質量(Mpns = 2.13 Mo)に到達.
(O'Connor & Ott '11; KN+'15)
→この先成長?衰退?



中心付近の降着流

✓ s17.0 と s27.0 では冷たいdownflowが中心のPNSを叩き続ける.
 → PNS質量増大、ニュートリノ光度維持

→ 爆発エネルギー成長





ポスト京に向けて

京都大学基礎物理学研究所



Multi-messenger signals from CCSNe

0230 ms

Detailed simulations

R<5000km, t<1s (狭い、短い)

空間2次元/3次元.



Thielemann+'96

Long-term CCSN simulati (KN et al., in prep.)

- ✓ 全てのモデルが爆発に転じた.
 t = 7-8 秒で衝撃波が外境界@10万kmに.
 (He層の底に対応)
- ✓ <u>s11.2モデル</u> 爆発エネルギー、PNS質量ほぼ収束 Eexp = 0.19 foe, Mpns = 1.36 Mo
- ✓ <u>s17.0モデル</u>
 ~7秒後でまだEexp, Mpns成長.
 Eexp = 1.23 foe, Mpns = 1.85 Mo

✓ <u>s27.0モデル</u>

s17.0モデルと同様に成長.
5.29秒後に1D GR計算で予言される限界 質量(Mpns = 2.13 Mo)に到達.
(O'Connor & Ott '11; KN+'15)
→この先成長?衰退?



Multi-messenger signals from 17Mo CCSN



Multi-messenger signals from 17Mo CCSN



Galactic event @ 8.5 kpc - neutrino



the bounce time within ± 3.0 ms at 95% confidence level.

✓ Pointing information (via e⁻ scattering):
 ~ 6° (SK), ~ 3° (Gd-SK), ~ 0.6° (Gd-HK), ~ 0.3° (DUNE)

Galactic event @ 8.5 kpc - GW

✓ With the aid of the timing information, → small time window [0, 60] ms. → hard to see time-dependent waveform structure...

✓ Prompt convection
 → small frequency window
 [50, 500] Hz.





Galactic event - EM

- ✓ Pointing information from neutrino detection
 ~ 6 deg. (SK) → ~28 sq. deg. → 20 images (Subaru/HSC)
 ✓ Integral time *a* to catch SBO (Δ*t* <~ 1hr)
 (*a*+0.5)*20=30 → *a*=1 min. → 24-25 mag.
- ✓ Time delay

R_{*} / v_shock ~ 1 day (RSG), a few min.! (WR)



まとめ

Step 1: 時間・空間を限定して超新星の系統的性質を解明 KN+'15 PASJ, 67 (6) 107

爆発の特徴的な量(ニュートリノ光度、PNS質量等)はコンパクトネス ξの関数として表 すことが可能.

→しかし爆発エネルギーや元素合成反応はまだ収束していない.

> Step 2: "代表的な"モデルを選んで長時間計算

R<100,000km, t<10s

R<5,000km, t<1.5s

KN+, in prep.

Step 1で爆発に転じたモデルの中から小/中/大 ξ モデルを選択し広範囲・長時間計算. → **爆発エネルギーが10⁵¹erg**に到達. しかし**収束しない**. **2Dの問題**.

 Step 3: ポスト京を用いた"より現実的な"計算 空間2D → 3D 2-flavor IDSA → 3-flavor IDSA + more reactions.

Step 4: マルチメッセンジャー天文学に向けて

KN+ arXiv:1602.03028
ニュートリノ検出! → 位置・時刻情報
→ 重力波検出!
→ 光学望遠鏡観測!

